

Title	はじめに
Sub Title	A preface
Author	高橋, 智(Takahashi, Satoshi)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2011
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.46 (2011. ) ,p.1- 4
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫開設五十年記念講演とシンポジウム古典籍の探求 : 書誌学の世界
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20110000-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20110000-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## はじめに

高橋 智

去る平成二十二年（二〇一〇）十二月四日（土）、十一月二十九日（月）から六日間開催された記念展示会貴重書展の最終日午後一時より、書誌学の世界に通暁される先生方による基調講演とシンポジウムが行われた。テーマは「古典籍の探求——書誌学の世界——」。第一部基調講演は、名古屋大学大学院教授 塩村耕先生の「岩瀬文庫に教わったこと」と題するお話があり、午後二時からのシンポジウムは、名古屋大学大学院教授 井上進先生、東京大学東洋文化研究所教授 大木康先生、茨城大学大学院教授 真柳誠先生をお迎えし、本文庫高橋智の司会で進められた。

それぞれの先生の簡単な紹介をさせていただくと、塩村先生は、一九五七年のお生まれ、一九八一年東京大学文学部国文学専修課程ご卒業後、一九八五年同大学大学院国語国文学専攻博士課程を中退される。ご専門は日本文学、特に西鶴・芭蕉など江戸時代の文学を中心とした研究で、主著に『近世前期文学研究——伝記・書誌・出版——』二〇〇四年・若草書房、『古版大阪案内記集成』一九九九年・和泉書院、『岩瀬文庫書誌目録のための試行千点目録』二〇

○一年・汲古書院、などがある。

井上先生は、一九五五年のお生まれで、一九八〇年京都大学文学部史学科東洋史専攻ご卒業後、一九八四年同大学大学院文学研究科博士課程を中退され、ご専門は中国、明・清時代の學術史、更に學術史の研究から派生した課題としての出版文化史研究で、主著に『中国出版文化研究』二〇〇二年・名古屋大学出版会、『書林の眺望―伝統中国の書物世界』二〇〇六年・平凡社、などがある。

大木先生は、一九五九年のお生まれで、一九八一年 東京大学文学部中国文学専攻をご卒業後、一九八六年 同大学大学院文学研究科博士課程を単位取得退学、ご専門は中国文学、特に明末清初の中国江南地方、通俗文学の旗手とされる馮夢龍（二五七四〜一六四六）、冒襄（一六一一〜一六九三）を手がかりに、この時代の社会と文化をさぐる研究で、主著に『明末江南の出版文化』（『研文選書』）二〇〇四年・研文出版、『馮夢龍『山歌』の研究…中国明代の通俗歌謡』二〇〇三年・勁草書房、などがある。

真柳先生は、一九五〇年のお生まれで、一九七七年 東京理科大学薬学部薬学科をご卒業後、一九九二年昭和大学医学研究科薬理学博士課程を単位取得退学。ご専門は、中国と東アジアの医学史・本草史・医薬文化交流史・医薬書誌学で、現在、世界中に存在する古典医学書の調査に当たられている。論著に「楊守敬と小島家―古醫籍の蒐集と校刊―」東方学報八三、二〇〇八年、「本草の研究（一）〜（二三）」東洋医学二一・八〜二五・六、一九九三〜一九九七年、など多数がある。

今回のシンポジウムは、記念展観を「書誌学展」と題して行ったことから、「書誌学」を、それぞれの先生方の東



塩村耕氏



(左から) 井上進氏・大木康氏・真柳誠氏

洋学研究分野からどのようなようにとらえておられるかの一端をお話いただくという趣旨であった。先生方が、書物との出会を通して、現在のご研究に到達された経緯や、文献研究の面白さ、難しさなどをわかりやすくお話をいただいたわけである。

塩村先生のご講演は、岩瀬文庫という豊富かつ多方面に亘る文庫の実態を調査されるなかから、意義ある書物との

出会いなどをお話いただき、シンポジウムの、井上・大木・真柳先生には、歴史・文学・医学書という分野を中心とした書物へのご関心を、書誌学へ向けていただいた。討論は、もっぱら古典籍との出会いが大きな研究の指針となつたことの共通体験に力が入った。

ここに、先生方のお話をそれぞれにおまとめいただいたものを掲載し、本講演・シンポジウムにご参加された方、また参加できなかった方のために、貴重な記録として参考にしていただければ幸いである。